

東京都議会議長 増子博樹殿

中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)結果の活用中止に関する請願

東京都教育委員会(以下都教委)は民間業者と協定を結び、令和4年度から全公立中学3年生を対象に中学校英語スピーキングテスト(ESAT-J)を実施し、その結果を都立高校入試の合否判定に活用してきました。これには多くの問題点があることが専門家、教員、保護者等から指摘されていますが、都教委はそれに応えようとせず、さらに令和5年度以降は入試で活用するだけでなく、新たに1・2年生でもスピーキングテストを実施しています。

透明性・公平性・公正性を欠き、運営体制が整っていないテスト

- ① 令和4年度、5年度、6年度いずれの ESAT-J においても、試験中に周囲の生徒の解答する声が聞こえるなど、解答に影響する音漏れがあったと受験生等から多くのアンケート回答がありました。これではとても公平・公正な試験とは言えません。令和 6 年 11 月 24 日に実施された ESAT-J ではタブレット機器の不具合が多発し、試験開始まで長時間待機させられた受験生、別の日に再試験となる受験生が多数出ました。タブレット端末の不具合や試験監督のずさんな対応などのために ESAT-J の再受験者は 255 人となり、その数は令和5年度の60人から4倍以上に増えました。試験監督の研修体制を含めて、ESAT-J は試験の運営体制が整えられておらず、その点数を入学試験として活用できる水準には全く達していません。
- ② ESAT-J の不受験者には、学力検査の得点が同程度の受験生(前後 10 名程度)の ESAT-J 結果平均から見込み点が与えられますが、その妥当性を示す統計的根拠はありません。また、「不受験者の扱い」によって、英語の学力検査が上位の受験生が、英語の学力試験が下位の受験生よりも総合得点が低くなり、順位が入れ替わる「逆転現象」が起こる可能性が除去されておらず、実際にどのような事態が起きたかも公開されていません。合否を判定する入学試験として失格です。

授業と英語教育の質の低下、教育格差拡大の懸念と不適切な都財政運用

- ① 人間とのやり取りではなく機械に向かって、自分とは関わりの感じられない内容について一方的に説明する問題で、英語でのコミュニケーション力を測り、向上させることができるのかは疑問です。試験を動機づけにするのでは、本来の目的ではなく、試験で高得点を取るための学習に目が行きがちになります。
- ② 経済的に厳しい状況の家庭の子どもには、ESAT-J は不利に働きます。新学習指導要領下で英語学習がさらに難しくなる中、塾に通える子とそうでない子の間で格差が広がります。
- ③ ESAT-J について令和6年度の予算額が43億円、6年間で合計210億円の契約が結ばれています。これだけの予算があれば、外国人英語指導員も含め不足している英語科教員の確保、35人学級の実現が可能となり、英語を話す力の育成にも十分効果をもたらします。

請願事項

1. 都において、中学校英語スピーキングテスト(以下「ESAT-J」という)実施直後に受験生全員と各学校(教員)等を実施状況に関する調査を行い、すみやかにその結果を公表してください。
2. 都において、ESAT-J 結果の令和 8 年度都立高校入試への活用を中止してください。

お 名 前	ご 住 所 (「同上」「#」は使わないでください)	(印)
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	
	都 県	
	府 道	

＊ご記入いただいた個人情報は、この署名目的以外には使用しません / 本人による記載の場合押印は不要です

呼びかけ団体 都立高校入試へのスピーキング
テスト導入の中止を求める会

取り扱い団体

【署名送付先:〒102-0084 千代田区二番町 12-1 エデュカス東京 5 階
東京教育連絡会 2025/11/10 必着】

＊ご質問・ご意見はこちらへ: stoptokyospeakingtests@gmail.com